

散策

take a walk
in
my alma mater

出を見つけに……”

物語の特集記事を載せましたが、読んでいただけましたか。しゃるのではないですか。下さい。

まず校門前に立つと、風格ある門標が目に入ります。これは、曾我英丘先生（昭和34年卒、本校旧職員）の書になるものです。

校門脇には楠の大木がそびえています。卒業生の記憶をたどってみると、それほど



①



②

樹齡は古くないようです。確かに、私たち昭和39年卒の意識の中にも、ご神木のような校門脇の楠の印象はほとんどありません。校内を散策するとその他にも楠の多さが目立ちます。朝日高のシンボルと



③

も云えるほどの楠の大木が校門脇に鎮座しているのは興味深い風景です。

大木といえば自転車置き場に沿って林立する銀杏の木、柔道場前の銀杏の木



④

って新たに応援団を結成しました。残念ながらその時のラグビーの国体出場は成りませんでした。が、皆が、雄々しく、勇

ましく、潔く応援し、戦った記憶は消えることはありません。

旧制六高の名が冠せられた木もあります。山陽新聞（06/5/12夕刊）にも紹介された六高菊枝です。中



⑤



⑦



⑥

世に消失したとされていた種を六高の教授が発見、六高で花を咲かせるようになったこの名がついた。朝日高校同窓会公式サイトより。校内を散策して特筆すべきは、石碑の多さです。数は特定できませんが10基をはるかに超える幾つもの碑や像が